

動物看護職養成高位平準化対応連絡協議会 情報共有会・意見交換会



平成24年5月14日 TKP新橋ビジネスセンターにて開催、全国から39校55名が参加した

文部科学省 園入由美氏より 専修学校単位制・通信制導入について

専修学校に関するこれまでの主な制度改正などを 昭和51年度から、制度改革を始めた。
なぜ専修学校において単位制、通信制を今まで行わなかったのか、それは専門学校は実習が多く割合を占め制度導入が難しかったからである。
専門学校はクラス単位、小人数で対面できめ細かい指導をする事が出来る。

■その専門学校で単位制、通信制を導入する意味とは？
背景としては、生涯学習機関の充実の観点から、社会人等の多様な学習ニーズへの対応
又、短期プログラムの積み上げによる学習成果の評価を促進するためである。

■社会人の受け入れ状況の推移として大学は下降傾向、専修学校では上昇傾向にある
職能団体から在職の方の再教育などが増えている。
社会人の学び直しというニーズに、制度導入により応えてもらえる事が可能となる。

文部科学省は専修学校の質保証・向上に資する取り組みの実態に関する調査研究事業を発足。
自己評価、第三者評価、関係者評価、により教員の質の向上の在り方等を議論していく。
少子高齢化に伴う労働人口の減少、非正雇用層の増加を鑑み、学びと職を両立し自らの
職能力向上を目指すことが出来る社会の実現、社会人がアクセスしやすい学習環境を
整備することを目指している。



情報共有会

機構長 山根義久 先生

最近あまりにも便利がよくなりメディアも発達し、情報共有が簡単にでき、逆に物事の理解が出来ずらくなっている。
個人が手紙をやり取りをしている頃は、言葉の一つ一つが残り、正確に伝わっていた。便利が良くなった今、この様な
意見交換会や情報共有会を催す意味がある。獣医師は雇用主。優秀な看護師を養成、教育するのは専門学校の重要な使命。
両者がうまくかみ合っこれが両輪になっていかねばならない。
医療関係には20以上のパラメディカル資格があるが動物医療に関してはまだ1つも無いのが現状である。
現況、あまりにも情報伝達が悪く、誤解が誤解を産む状況で、情報共有をする意義は大きい。

一国は一人によって起き、一人によって滅ぶという言葉もある。

こういう危機意識がある時代こそ改革は起きうると思う。改革が行われない限り前進はない。皆さんが一丸となって努力していけば必ず国をも動かすことが出来ると信じている。

副機構長 太田光明 先生

私が副機構長をやらせて戴いている目的とは何としても公的資格を獲得したいその一念からである。また、もう一つに高位平準化が成功すれば必ずや公的資格を獲得できる。ぜひ大学と専門学校が話し合いをして高位平準化を目指して頂きたい。

幹事長 細井戸大成 先生

動物看護師資格に関しては、なかなか前進しないという部分を統一認定試験の導入でスタートさせられたと考えている。しかし、これを確立させ、定着させていくのはとてもむずかしい。この制度は動物医療をよくするためには必ず必要である。専門学校が本当の意味での、この制度が国家資格に繋がるかどうかの、成功の鍵になるであろう。

機構事務局 横田淳子氏 による 移行期間の説明

動物看護師統一認定資格の目的として、動物に関わる職の質・魅力の向上を目指す為には資格化無くしては考えられない。統一された資格から公的なものを目指して行き、現、看護師も広く取得できるものとする。動物看護師養成機関による平準化から高位平準化への移行が重要となる。統一化への移行期間は今年度4月1日から平成27年3月31日まで。試験内容としてマークシートは平成25年2月17日（日）に全国一斉で開催される



世話役 下園恵子 コアカリキュラム作成の経過紹介

コアカリキュラム作成の工程として、発起人会において専門機関で現行している動物養成カリキュラムを収集。

（高位平準化対応連絡協議会44校の内20校からカリキュラムの協力があつた）各校の現行カリキュラムを洗い出し、科目名称の統一、分野分け（基礎・専門基礎・専門応用）また、各分野の定義を定め、所属教科を提示した。各教科のキーワード（履修科目）、教科ごとの時間数の割り出し、文科省「専修学校の単位制導入」施行に伴い、教育時間数を単位換算する。学識者の先生方にアドバイスを受け、動物看護職制度在り方方針検討委員会に「案」として提出・・・評価を受ける

その後も、活発な意見交換が続いた。

